

Dialogical Expertise Intensive Workshop

ダイアログの哲学と実践のためのエキスパート・スキルを学ぶ集中研修会

Becoming Dialogical via Deliberate Practice

2024年6月1～2日 対面・ライブ方式

オープンダイアログやアンティシペーションなどのダイアログ実践の哲学と臨床姿勢を基盤として、**Deliberate Practice**の方法論を用いた**Dialogical Expertise**（ダイアログのエキスパート・スキル）のトレーニングによって、対話実践のパフォーマンス向上を目指す、体験と実習（練習）ベースの集中研修会です。

オープンダイアログはフィンランド西ラップランド地方で発展し、当事者や家族などのネットワークとの開かれたダイアログによって、精神的な危機状況を乗り越えようとする画期的なアプローチ。アンティペーション・ダイアログは、同じフィンランドで福祉や教育領域での実践法として開発され、早期ダイアログと未来語りを特徴として、地域行政、組織の活性化などでも、幅広く応用されているダイアログ実践です。

Deliberate Practiceは、エキスパート研究で有名な心理学者アンダース・エリクソンによって、超一流の音楽家やアスリートたちの観察研究から導き出されたもので、臨床家としてのスキルアップ、自己研鑽、エキスパートを目指す方々には必須の、最適なトレーニング方法論でしょう。また、**Beyond Best Practice**を書いたノルウェーの **Birgit Valla**はこの方式を自らの臨床実践だけでなく、組織や地域のメンタルヘルス・ケアの改革にも拡大、応用したことで知られています。

そして **Power Threat Meaning Framework**（パワー・脅威・意味のフレームワーク）。イギリスの **Lucy Johnstone**らが従来の精神科診断に基づく医学モデルへの代替案として提唱し、これまでとは全く異なった視点から心理的苦悩や様々な問題をとらえ直し、利用者の声を十分に取入れた上で、新たな、より広範な治療や支援の可能性を示すフレームワークとして注目されているものです。

オープンダイアログやアンティペーションなどに多少なりとも知識や経験がある、あるいは実践を考えている方々が対象ですが、ダイアログ実践の哲学と専門性（エキスパート・スキル）を学び、より効果的なセラピストを目指す方々なら、職種や経験にかかわらず大歓迎です。

ダイアログ文化の醸成と実践のための研修会

2024
#2

講師：白木孝二 Nagoya Connect & Share 代表
RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士
<http://www.nagoya-connect.jp/>

日時：2024年6月1日～2日（土・日） 対面・ライブ方式 各10:00～17:00

会場：Nagoya Connect & Share 名古屋市東区葵一丁目4番34号 双栄ビル3F北
地下鉄東山線 新栄町下車 葵町交差点を北へ徒歩4分 詳しくは別紙地図を参照

参加対象：医療、福祉、臨床心理、教育、組織開発などの領域で、相談支援活動に携わっている方。ある程度、実践経験をお持ちで自身の臨床能力向上を望まれる方。

定員12名：事前申し込みに限ります。

参加費：36,000円（1日のみ参加の場合は20,000円）

参加可能の確認連絡をしますので、その後に口座に振り込んでください。

振込先：三菱UFJ銀行 覚王山（カクオウザン）支店 普通口座 3603322 白木孝二

申込先：「必要事項」を記入の上、e-mailにてお申し込み下さい。

E-mail: kshiraki-connect@nifty.com

〔必要記入事項〕

- ① 氏名（ふりがな）
- ② 職種、立場（ex. 医療、心理、福祉、教育、組織開発関係 etc.）
- ③ ダイアログ実践、ブリーフセラピーなどの知識、経験について
- ④ E-mail アドレス（ご連絡は主として E-mail にてさせていただきます）
- ⑤ 連絡先（自宅・職場のどちらか／住所・Tel/Fax 番号、緊急連絡用に携帯番号）
- ⑥ 領収書が必要か否か（必要な場合は宛名も）
- ⑦ 研修会に期待すること、特に取り上げて欲しいテーマなど

その他 補足事項

- ・6月1日の夜には、懇親会を予定しています。参加者同士の交流、情報交換などの機会にできればと思います。参加希望の方は事前にお知らせください。
- ・2日間通しての参加が原則ですが、それが難しい方は1日参加も可能です。申し込み時にその旨お伝えください。

講師 略歴

現職 Nagoya Connect & Share 代表。RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士
名古屋市児童福祉センターを経て、2007年より現職へ

1991年 米国、ウィスコンシン州、ミルウォーキー Brief Family Therapy Center の
Residential Training に参加。Steve de Shazer, Insoo Kim Berg から直接指導を受ける。

2005年 米国、テキサス州、ヒューストンの Connections Center より
RDI® Program Certified Consultant 資格取得

2016年 ~ Open Dialogue Network Japan (ODNJP) 運営委員

論文・著書（分担執筆）など

「BFTC・ミルウォーキー・アプローチ」ブリーフセラピー入門 宮田敬一 編 1994 金剛出版

「Steve de Shazer の業績と貢献」 ブリーフサイコセラピー研究 第14巻 2005

「ソリューション・フォーカスト・アプローチ再訪」東豊 編 こころの科学 176号
特別企画 家族療法とブリーフセラピー 2014 日本評論社

「ポスト・ソリューション(Post SFA)における私的な温故知新」
特集・「家族療法」温故知新 家族療法研究 2014 Vol. 31. No. 3 金剛出版

「オープンダイアログの対話実践、そして援助者の在り方について」精神看護
2015. 11 医学書院

「開かれた対話—セラピストのあり方」臨床心理学 第15巻5号 2016. 09 金剛出版

「オープンダイアログと言う会話のつぼ」ナラティブとケア 第8号 2017. 01 遠見書房

「フィンランドからのもう一つの贈り物：未来語りのダイアログ」精神療法 Vol. 43. No. 3
2017. 06 金剛出版

「未来語りのダイアログ—もう一つの基本プロセス」精神科治療学 2018. 33(03) 星和書店

「オープンダイアログを心理支援に活かすには」臨床心理学 19巻5号 2019. 09 金剛出版

「ダイアログ実践の哲学と臨床姿勢」オープンダイアログ 実践システムと精神医療
石原、斎藤 編 2022 東京大学出版会

「ダイアログ」臨床力アップのコツ：ブリーフセラピーの発想 日本ブリーフサイコセラピー
学会編 2022 遠見書房

訳書（共訳）

飲酒問題とその解決 I・バーグ、S・ミラー著 斎藤学 監訳 1995 金剛出版

安全のサインを求めて A・ターネル、S・エドワーズ著
白木、井上、井上監訳 2004 金剛出版

自閉症革命 M・ハーバート、K・ワイントロブ著 白木孝二監訳 2019 星和書店

精神科診断に代わるアプローチ PTMF L・ジョンストン、M・ボイル著
石原/白木/辻井/西村/松本 訳 2023 北大路書房

サイコーシスのためのオープンダイアログ N・パットマン、B・マーティンデル編

石原孝二編訳 2023 北大路書房

アクセス地図です。



〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1丁目4-34

名古屋市交通局、地下鉄路線図へのショートカット

<https://www.kotsu.city.nagoya.jp/jp/pc/subway/routemap.html>